校正

北窓瑣譚

後篇 三

1曽5
23/7

門 1番5
号 339
巻 7

北窻瑣談後編巻之三

梅華仙史橘春暉著

一山中の人ハ長寿なり海辺の人ハ短命なりもべて肉食のゝふたよる者ハたとへバ燈火をこゝゝぎて明らかのありとゝども油のえやくつるゞ如し天年をもやくゝげそもゝ故ふ寿なりゝとゝ思ふる廣く天下の人をえらふ蛮人なゝど皆短命ふゝゝ五十ゝりまて死ゝるを日本の七八十累ふゝ死ゝる者のゝゝ長寿を得たるとふゝぞ

一筑前福岡辺ふハ小兒の泻下の病多して救ひうゝき難症と亀井道哉これを名づけゝ暴泻病とゝ他国ふいちゝき

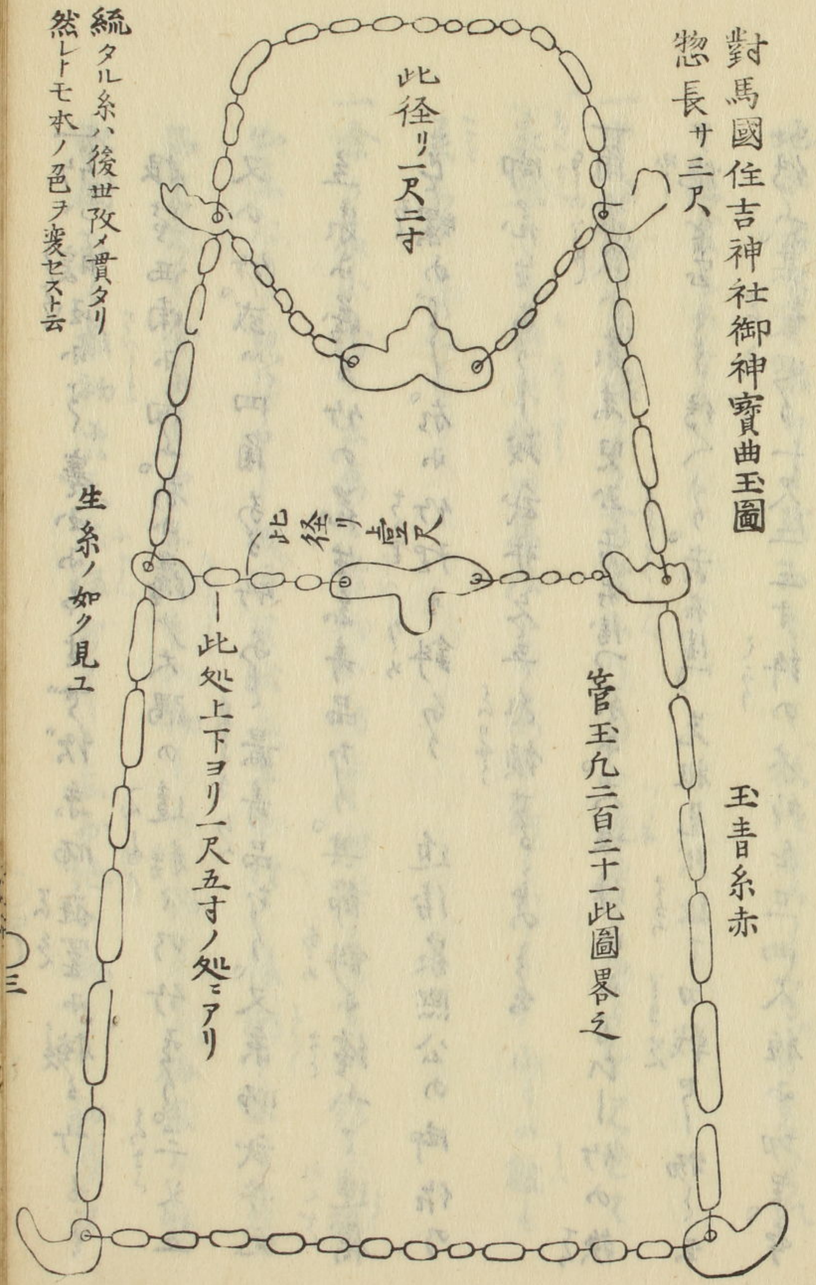
一種の病なり慢驚風などゝハ似ぬ然れども此病くち
もぐ治しがたしと亀井子かくぐたし
一薩摩ハ初生の兒二三箇ひハ四五箇の時ハ故無して
俄ニ啼ハ腹痛のやうハ見ゆるく何の故とも慥ハ知れ
がたし此病發れバ一盈夜或ハ二三日も啼尽して皆死る
なり初生の間ハ啼ハ止ざれバ皆死ぬ必死と定むるく此症彼
地にハ多く夭し小兒第一の難症とするく他国ハまし余ハ
く考へし吏ハれが方をもへ飯りめ其後ハいこで有しや
一肥後邊ハ下賤の人ハ片足ふとく腫く柱のごくなる病多し
京都などハなき病なり西国の生れの乞食ハ稀ハ此足ハるを

見るとハり此病ハ詩經ハいふ壎とふ疾ハや
一肥後の球琳とふ聚ハ腹痛を患ふ多し生涯腹痛を患ふ
る人余ハ見し聚ハも數十人ハり地氣のさうし むるゆ
ハして他国ハなき吏なり東ハ越中富山ハ亦腹痛
甚多しかうれども其病因ハもそし異なるやうに
思ふる
一伏見ハ倉の湖ハ古名茂巨椋の入江とハらく淀川ハ水多ひ
ハ漁者此鯉茂多ハ羽殿と呼く此湖中の神遠ハも此鯉ハ
て遊りもる同ハ者ハ羽殿ハられハく多ハ綱茂

下し絹をたゞまぜ余ル初ゑ虚談あるべしと思ひ居しが後
ゆ親しく来りてこれらの玉我同る人ゆ実しゆを人も見
たりと語り侍る。此頃ハなえて ふ出と雪ゆ
一苏子ゆを画ゑ屏風ハ古昔不浄所ゆ立ち物ゆを
む。右ゑ屏風ゆ苏子ゆを画ゑたるハ産婦ゆを引きゑ立ちゑ
何の書ゆ出くるゆを也
一玉体より堀出ゑ神代の旧物ゆ曲玉といふもの有り。表玉ゆて作り
形豆莢の如く。その方ゆ穴ゆ。大ゆ一様なるゑ。神代の衣裳の
飾也といふ。玉ゆ造る玉石ゆ出雲国ゆ。ゑ山ゆ玉造
明神の社ゑ。神代ゆ玉地ゆ玉我造りて商ひし人住りと思ふ

對馬國住吉神社御神寶曲玉圖

惣長サ三尺



生糸ノ如ク見エ

統タル糸ハ後世改メ貫タリ
然レトモ水ノ色ヲ変セスト云

一竹ハ暖国ハよく寒国ハ生ぜず依て京師庭園ハ稀る竹也

根笹西南ハ向ハ。東ハ薄大隅の道程く乃竹なり。三又五

又の竹。或ハ四角ある竹あり最奇品なり。又京師武井元

立家ハ蔭る竹の花生ず奇品なり。其節斜ハ繰ふて連属

せ螺のごとし。故ハ竹理も斜あり　近衛家熙公の御作乃

御花生ありし我武井氏ハ拝領せるものと云

一角倉氏の家来見玉右衛門家ハ。大坂陣中ハ用ひし竹の鉄

炮を宝とし伝へくり。右右衛門先祖見我敵て刀戦ち物と云

伝へ。其製週り一尺二三寸絃の大竹を三曲尺程ハ切里。寸

乃如ハ松木ようく壱我付竹ハ各我の猛二ツ我入き程麻

糸ハ巻立紙ハ巻法て梅法を引なり。信ハ口火の穴を

地ハ右垂て石なり我玉として敬法ものとなる。芋芝くられ

て珍宝ものなり

一宇治橋の南岸より黄葉山乃南ハ連る山くを見きた

完無さる荷葉皺の画法なり面く所くハよりく山くの皺也

吳あるものなり

一余り家ハ蔭る玉画ハ最初ハ狩る同歩るるハ終りハ紙

出来たり四八ものなり物。月我就元年を経く後衛くハよ紀

而見くく今ハくも玉珍宝の物くなる物多し。梅窓ち山

水図あり最初ハ玉不満なるく玉面絶の物なく秘蔵す

書画ハ一二幅を紙日壁頭ニかけ意そよくしを意我又好く
後ニ浮を爲和事なり。數百幅の展覧或ハ寺院の出排又
ハ用帳の間ニあゞ又ハ生画乃妙所ハ又ハ加しく新
爲し。扨て是ハ書画のミニ限ゞて詩歌ニても加のごゝ。并又
ハ同画ニく是く再用新岌ハ美のよゝ物ニてハ無し
一ニ児乃ハニ生画をよくゝ詩哥ニ巧なる皆人乃称美さる
事なれゞも。是くハ年去ゝて後何の勝きてる事ハ無く成
ゝ。なり。是又世或ハ他人よりも。小児の事なれと形ニ新母
ゝく奇ニ思ハく是誉る故。自然ニ小児ハ此ニ我生し
早是ニて世間ニ勝きなりゝ思ハより後ニ動り平常の人ニ

なりも不及事ニ成なり。是又世かゝも誉ることなく随分力藝
後り抜群ニ勝きなる師ニ従ゝ是。是小児乃仰ぎて
ハ是師ニ何ハも不及事ニ思ハしめ。数度修りゝ是を長
年の後あゞも人ニ勝きざゝ是や。余も昔ハ小児の奇才我発
を誉ゝが。是後ハ才ありとハ小児ニハ後く教訓我加ゝを小児
我ゝく大成せゝ是んと希て。是かも産頭の学問婦人
乃書画詩文ハ後ニ名を是て恐ニ不足事のあり。外仕具
足の男子乃才藝ニ比ハ行物ゞの不足ハ是ゆゝ事の
一端ニ奇ゝの長せゝ我餘の技我ゝとハ是ゆ有り。唐土ニも
似ることゝて新紫求ニ。是ニ餘我出せゝ餘縁我去く

食ひしゝを主人怒りて足下いまゝ不飢〻〻餘慶引給しゝ
いまゝ餘緑とハ餅のかゝ日を焚く緑の墨くなりなる
所なりや

一吉益東洞翁豪邁の氣象ハ世のゆゝを所なり。但文雅風流
乃ゝ竹ゝ及ぶべきゝ近ち人れ物語ハ東洞翁詩経
の詩を題ゆく

鹿門ゝ系や侍ゝ鹿の毒をなり書や寄らんまや異ふゝん

一河戯の絵なりゝゝ。を侍雄渾近河の人乃ゝ多ふ面ゝさるのゝ
ゆゝゝ。古乃作家とゝ〻〻多くゝ侍ゝゝる弱なり。豪傑
乃士天下の細事何ゝなりゝゝん

一室新助先生の和歌ハ忠臣無二心を
ゆゝハしなゝみてゝハ社ぬゝおゝてゆハ菅の葉乃ゝゝゝゝゝ
一を侍ハ後世の風ゝゝゝ調の義理穏ハく面ゝくよく漬ゆハ
ゝゝる歌なり。漢学の何事ハゝくゝを

一薩摩大隅の田間ゝ疱瘡を病む家粥を煮く其
粥の汁を病兒ゝ多く強飲せしめ残の粥ハ家内の者
食ひゝゝなを餘りゝれバゝゝし飯となれ只ひさゝゝを煮
く食せしむるを上策ゝれ痘中ゝ数斗の米を煮
要ゝり只米を多く煮ゝるを養生の行ゝき
なりとして富家ハ数斗ゝ乃ふゝく故ハ病人ゝ反つて

飲食停滞の患ひなく害を起こすもの有り又屋久の島徳の島大嶋辺ハ山産の家かるゝ多くゝぶりは火を焼くゝ晝夜とも莫太の薪を集めゝ只ひさ毛ら火を多く焼を養生の第一とふ也富家ハ一七日の間は數百束の薪をたき尽ス事ありて如此して上逆の患多のゝざるゝ不思議なり産倚鎮帯の事ハむ能ハ

ゝしとふ

一自ゝ西国て後ハ人ゝ赤子命令ハ後ひゝぶゝゝ辛りて後ハ人ゝ手ゝゝゝ信ゝて後ハ人ゝ信ずるものなり其きどもなりはゝふ大言我吐ゝ沢人ゝゝゝれど中ゝ静ハ者て自信ゝゝゝハ修りの功ゝ積ゝなる糖なる事ハ信しかゝゝものなり釋氏法宗の祖師たちの生涯ゝ是を以て自ゝ信ずるゝの厚ゝを知るべし此ゝを以て一宗我ゝ建立し衆生我ゝ渡度せしぞ

一妻曙医を学ふゝ世修年医学ハ於ゝハ和漢古今ハ遠ゝと雖ハ独り男ふ毛他の技芸年若より多端ハゝりて学ひ尋ぶゝゝ何一事人並ハ出ゝ修りの功ゝゝゝ未熟の藝ゝ所ハ嘲ゝ第ゝ時人の称美を得ゝ虚ゝゝハ幼ゝゝゝ何ゝ嘆し我ゝ地を人ゝ毀ゝ地ゝ医学の

或他人社稷ちるふハよ〳〵称でき又姉〳〵ぞ悪し
とそ〳〵られて心悪り腹立ハ公卿もなし。是ハ〳〵安身立命
し居る教へ道義を合点ちるもの〳〵ぞれの地位ふ高〳〵ハ
寵辱も毀誉も名利ハ公戒孔子ハ五十と四りる。古乃聖
賢ハ如此なる金し

一明の萬曆社天子より前田玄以法印を都督僉事の官ふ拳
なる〳〵勅書或晋紳家ふ珍蔵しあり或拜見せふ。唐紙
乃大なる中〳〵なる紙ふて四辺ふ画欄ふり手迹も玉〳〵成
ものなり知ふ写し事ぬぬ
一人の利鈍賢愚を知の考へふと鳥獣の死せるを解て

ふまゝ初く見し事の有しふ牛の胃中ふハ屠兒の方言ふ千
牧〳〵ふものと蜂巣とふものハ蜂巣とふものハ蜂の巣の
ど〳〵穴のふきたる皮膜のやうなるものく千牧とふハ皮
膜を數十牧重ねて〳〵その皮膜鮫魚皮のどくとさひ瓦
のどくなる物〳〵此二物ハ牛の草を食して胃中ふり
件の蜂巣を一遍透して此草を化し再ひ千牧を透
して細密る化る胃中の道具しかく〳〵の如く色くの形を
數遍透る故ふ生の草を食ふ〳〵と水鮎化して肛門ふり
出る時ハ其細密ふなり〳〵鮎化したる糞く馬ふい蜂巣
千牧〳〵ふ物なし只廣腸とふ水の有又芭蕉腸とも名く

甚廣く大なる腸く此所ハ食せるものを數日留めて陽氣
ふ〳〵薫蒸し化して糞ふきる故ふ馬糞ハ鞭くして疎
なりされバ牛などハ生草を食そぐきやすふ天より生せ
めしもの〳〵若是ふ飯餅魚肉の類を食せしめバ
粘着して件の蜂巣千牧通りのごく胃中鬱滞し
て死ぬべし人の腸胃のごきハ只竹の筒のごくなれ
バ粘脂膏粱ふいなされバ粮ひなるし生草などを
食せい忽ち泻下して死ぬべし皆おのゝ戒しづの
機開の仕ようハ格別なるものゝ
一鯨の牙歯ハなるぐ一角ふ似たり西国北国の海ふいる鯨魚
ふハ歯とふるのあし只紀州熊野浦より出る鯨ふハ歯有
鯨の中ふて小品類の異あるべし
一肥後の海中ふ早魚とふるの〳〵吻啄外ハ鮫の皮のごし
質ハ甚麻角ふ似たり魚ふ有べき物とハ見へぐ是を
以て見れバ一角の魚吻なる吏ふ知べうぐ
一醫者たるもの〳〵持べき書籍ハ内經本草傷寒論の三部
なり此三部ハ生涯讀べき書なり古今の医是を外ふしてハ
醫学とふ吏なし扨餘財ふいなバ千金方貯へ持べし方
を知ふ便く手近くハ方彙古方選の二部を藏るもよし
温疫論の一書ハ傷寒論の外傳とふべし仲景の意

を會し、其外古今の医書汗牛充棟なぞ
へ尺にべの〻に大のさハ古今の拔書の如きものくたまし一
見解する書ものづらよ古人の一斑をうかゞひ得るとふべし
一遍ハ眼を觸るゝよし讀ざるハ亦物なし

一利休の隱德社ハ高麗駿臺雜話ハ称美せるもの。隱德
乃ち有ると利休ハ卓無なる人物。中〻業人成ハく洋を養
元人ふ所ゝぞ。利休の娘社万代屋が方ハ嫁し居ゝる成。太閤
を容色成ものゝ由。たゞ入をらくゝ成。利休不承知ハく
一且嫁し遣せしかゝふ君命なれどもそ出しかゞ。ハ太閤
乃御怒ひよりて町人を四の發たりと云きんも口惜し。因前

乃富貴權勢成義乃為ふ顧ざる所大丈夫の氣象とい〻
一細川忠興ハ風流社ハ成し。二代ハ引續き茶道ハく
ハ一流を成ハ徒なり。或ハ蒲生氏郷細川乃茶道具ハ富
ものし成ものゝ。御道具ハ元致し。伊勢の日ハ茶ハ
ゝ約し〻ハ多ハ約ハ。細川家に名物名作の武具鎧太刀
繪ふ多ハ。餘ハ分て足せ〻ハ。蒲生警ハ所重成
せ〻ハ御茶具のるあり。細川茶ハ道具と茶ハ
ゝハ武具とを出ハ。茶具ハ世事なり〻ハ。
茶器數種足せものし。ハ人乃ハ〻ハ
ゝ。本業成志却せる樂ハ淡泊と云ふ近ゝ

ゆゑもなく名を汚す名を残す系人は大なる勝れる人也。何の恪情なしと雖も系人とは大なる吳なり。但禪僧乃至茶味禪味同しるすして源脩は如何ぞ思はる

一鎌遜なるは阿愉なし嘉邁なるは放蕩なる似たり。しかも阿愉乃至戒なるも人は鎌遜なるかゝし

一唐土秦の始皇帝の築しめ給へし万里長城は一なる制度のゆゑ。書籍なる築しは是ぞ人の同と知るひと無し。要害なる成る能乃至れなれど大なる物と思はる。数千里乃至なる存在されも無ましなるものと思はる。長城の東乃限は遼東の海中なる所に書なる書籍は

しるすの通りしなる東海なる殿数秩に長城乃根脚と築上なるとしるすは是ぞ清盛乃兵庫の築嶋なる百倍しなる念の入れるなり。始皇帝は暴悪の天子なるあり。唐土なるも称せし文は是ぞ。今乃清朝なる至て又此長城なるひく遼東より東北乃地数百里なる城を築られし是ぞ新長城とは

一唐土赫連勃々なる城を築しなる。地なる丈夫なる。雖を築て入れる一すあれは其作し人は斬しぞ。夫れ後近此殘れしや。唐朝の時なる赫連臺なる

清盛兵庫の築嶋の河。潮来りて作り上るを峰岩巖せて毛
作る人岩海中へ流免殺せしとぞ。是岩人柱を入きりと
云伝る。実ハ格別もつて大なる普請岩なるハ。それ程
乃殘恐のる岩ハ巖象せざれも成就しとかるべし
一御所の御築地前方乃田禄の境。御築地ハ半ハ崩きたるし
うち新ハ造り改えらきしハ。古元崩き殘るの築地を石排
ハ中く容易なるまじ。玉堅くして人夫駿象入り多合の日産
方換矢せしまつ作りしとかい伝ふ。洛西涼安寺の築地ハ玉丈
夫ハ作りて。多作り初土岩大釜ハくよく煮。是土岩塩の二ガリ
岩ハ解なく築地ハ作りと云。土岩煮るるハ土の生気を

節絶せしめ草木の生ざる為なり。塩乃二ガリハ解ハ年くハ土
堅まり虫ハ螻蟻蚯蚓などの住所なりざれ為なり。それ故ハ
ハ動き石のごとくなり
一近来蕪村り俳諧才気秀抜を作詰人意の外ハ出づ。学びく
動くる為紀のるハ一ハ。多人天然のなり。画ハ妙品を中絶
生来なる山水などハ近世前後ハ並ぶ人なし。存生のるさハ
画名の高かるざるハ。俳諧ハ掩ハきなるし。其の眼目なる人
の世ハなれるふるふなく
一晴山り俳諧古選を俳諧集の中乃最第一の撰なり。多人
織豊ハ名して自運ハ玉拙し。耳ハ為きる為白一色乃字なる

一蝶美法師余紀〻文〻しく。多人尋常の俳諧者流ハ古あ
ど。気象高逸且和文ハ学ハ一ハ不業内なるず。俳文ハ
別ハ一体成して淡泊平穏ハ出なるハ。自然ハ力量一ハ
窺知よりハ文章の方多長ぶる所と見る
一京師の儒ハ徳りハ足しく。稍ハもれも金銭ハ貪ハ出ハて
卑劣ハ情多し。田舎ハ儒ハ徳りの学ハ多く廉潔ハ風ハ
見聞ハ又世人のハ所ハ論なり。余ハかくのごとくなりと思ひ
居しぶ。年歴て漸〻傍より見るハ。田舎の先生徳りの学
文ハ多ぶ。境ハ京ハ接且住しく二三年ハ歴ると。いつとなく
金銭を貪ると之来ハ京儒よりハ劣し。是京師ハ衣食

の多ハ艱難ハ油断なくきれど。飢渇ハ身ハ迫り来り妻子
ハハ離散なる事ハ成るハ。雅俗貴賤ともハ京師
ハ人ハ節倹を辛ハ微細ハ利ハも積て翻ハの多だくとなる
ハ田舎ハ是ハ代て住所と食とハ大ハ粗先より為り来り衣
服ハ制禁ハれど美なるハ用ハるハ不及。微細の利ハ遠ハ及ど
ぶれハおハ〻ぶ〻ハ〻ハ〻ハ廉潔なる事ハ見ハるなり。地
ハ替て京師の儒ハ多煩悩ハ多れど田舎ハ勝るし
一今の森上下ハ大級の袖ハ切ハ切なるなり。羊上下ハ又多袴
一古ハ人鎧ハ垂ハ垂ハ着せ〻ハいるる製の垂垂ハ

一近年世上ハ珍書我好む人多く毎月の書ハいと希なる上
ハ高價ハ求ることなり。それ故偽書あるも世ハ多く出る
るハなりぬ。寛政己年ハハ唐土よりも写本の珍書我渡し
拵いたゞき渡りざる珍書ハ月録ばかり我渡し。高價あるゝゞ持
渡る類〳〵と云ふ。しかるに余も多月録我ならん。多くハ偽書
と思ふる。結候ハも天下第一の藏書家とゝふ所の文庫中ハ
なれ書ハ價我不論〳〵求めるハ是も寛政己年のるハ
ましゞ。文徵明の甫田集只一帙のものゝ中数ハ少れ物
我。書林最初ハ銀十八匁ゆて買なるゞ。二百疋ハ成ハ一両ハなり
三両五両と賣買して。終ハ三十五両ゆく求ゆし。清候

行り唐人ハゝく八倣前の清本氏あり。玉書ハ寄ハ玉ゝ。是も
象ハなれ去ハ何ハも募ハ求む法ハ加れ人多れ有。格別珍
奇なるゝ故去も高價あり。舊れ唐書あるも迚れ年まで
三四両の價あるゝゞ。五十金七十金なる云。萬曆板乃十七
史ハ二百金あるゝゞ。ふなるぬ。毛奇齡の西河合
集なゞも百金二百金と云。近れ霊臺儀象志ハ儀象考成
曆象考成我渡る。字本ハゝ百金ハ求めるゝゞ。ハ行り。余
十年許以ハ霊臺儀象志乃板本我七両二歩ハゝ人乃
賣ゝ我已及なり。絶乃年数ハ隔ゝ珍奇乃書ハ人の爭ひ求
る事ハなりて多る價ハなりゝ

一伴蒿溪近年奇人傳を撰著し大に世を行る三熊海棠又奇人傳後編を草し共に不畢して死しぬ。遺言に蒿溪に成就せんを我教しに為よと。蒿溪は是を終篇し世に弘む。此書出しより迄世の人物不朽に傳るるあり。

一蒿溪師地下の和歌四天王と称せ。澄月芦菴大愚蒿溪なり。皆各々和歌の風体大に異なり一様あらず。澄月は元来ゆく先達なり芦菴は才気秀発古体今体自由なり。大愚は彩毫画によりて歌に漢学を兼備す。蒿溪は清泊を主とす。

一ゆしてを外の徐情を志とする上の風体なり又和文はよく尚を才一しを称す

一澄月は伯耆の産なり幼より出家剃髪して同国玉峰の天台宗の大地に弟子となり所学多し。或時怠懈怠乃外の所に住持大に怒て汝は年も長しなり故怠懈怠しく行の役なり五度は足ず。此の澄月汝は足よりは十二の幼年なれども。能く怠慢なく編経学問を勤て殘る所なく出精し。之上は寺中の掃除毒所の小遣ひまでやすよく動む。此の澄月ごとくして遂に山寺なりの住職も成度なれ。汝ごとくはは芦菴乃一ツ

山ゐるこゝハ是来なりと叱らきる成。澄月傍ゐ笑ひ住持
の和尚ゐ向ひ。只々の御笑又こそいと心傷ゝ多くい。某が紅
涙ゐ新たに落るゐ深ゐ中して学問終ましハ。天下乃高徳と
ゐ仰ゐ尊ミ而生を傍愛ゐ能ゐ成ゐしと志ゝ作る有り
ゝのゝ山林ゝ修ゐ山寺経乃住職ゐ成ゐ年ハいと幸
意なれるゐいしゐ。和尚驚なて汝ハおとの者なるとうち
笑ゐゝ志ゐ寄ぬゐれより澄月男ハ。遂ゐ出る俗修ゐ経
ひ居て志ハ達ゐゝ叶ハ。京都ハ叡山ハ天台の本山
ゐゝ碩学高徳の僧ゐ多ゐ。いざや登ゝんと玉椿の寺
戒山奔して。十三の年初て叡山ゐ登ゝ。路金ゐ尽て困
窮甚ゝ。紀ゐ乞上ゐる人ゐなく夫合の妻俗人ゐあれハ。叡山の
ゐ一宿成ゐ絆ゐ。西之れ師匠或ハ俗縁親族の形ゐ上ゐ
ゐ乗ゐ。ゝ遂ゐれ行ゐ方なく生ゐ涯ゐ成ゐれゐ
難義ゐゝ成。下級の男又ゐて引ゐゐ一宿せしめゐの男の紀
ゝ紀ゐ成ゐゝ新ゐゝ山上ゐ為ゐゐ。ゐ後普ゝ名
徳碩学の僧成求ゐゐ。四ゝ人なゐゝ。ゐ山の裏へ
宗門の来ゐ為ゐ成歎息して終ゐ風流の道ゐ深き歌人
ゐなりゐゐて
一法候の玉成成励ゝ野卑ある人上ゐ長人ゐ導ゐ教ゐ
ゐの中ゐ成ゐ。一四文弱乃風行きゝ華奢の風俗ゐ

きくる國ハ家ゆ強兵の術絶しがゝ
一張ゆ下ゆハ挺てまくゝりよすあり。絃ゆ下賤のもの弦使ゆハ
法ゆより正路ゆ使ゝ者し。獅ゆ法外ゆ惡魔弦絶せ
ざゆ付上ゆゝ據ゆハ罰せられゆまぶるゆゆ成る者なり。獅の
惡魔及ゝ猛ゝ成ゝ多し。上ゝる人ゆ濟ゝ下御の者の罪ゆ
臨ゝぬゆゝゆ古ゝ多ゝ有ゝ。玉象の夷狄を御ゝるゆ不ゝの如
ゝなりゝ

一宋の沈存中が夢溪筆談ゆ宮者陰莖なし故ゆ髭生ざゝ女
子も陰莖なき故ゆ鬚なし是男子ハ腎氣外ゆめぐりて鬚
と陰毛生ゝ鬚と陰毛とハ腎氣の主る所なりとゝり沈存中

も東坡など同じく佛ゆして医のゝを言ゝを好ゝ彼曲
水練の徒く其論ハとるゆたゝ然れとも陰莖をきれバひげ
絶るものゆや今日本ゆ宮者なき故ゆ其夏をまゝゝれ
等ゆ医理の一の考ゆも備ふべき夏なりき

一る抜和尚ハ道德の僧なり。又詩奇ゆ巧なり。手ゆ享保前後
ゆ生き海内七ゆ體乃詩ゆ孤ゆ孤ゆ不退
吾四ゆ玉代作ゆ所ゝ今ゆゝハ詩ゆ彩ゆゝ人の主ゆ安
ゆ事なり。和歌ゆよゝ歌ゆゝ多逝ゆゝゝあり。蒿溪の作ゆ
乃抜和尚ゆ作乃詩の上ゆあるゝ。大潮萬菴ゆハ詩人の長ゆ
なるなりゝゝゆの作なり

一深草の玄政上人ハ袁中郎の侍集を求め二十遍よみくり渡して焼きすてゝ後ハ一生詩集を作ることなしと誓ひ給ひしとぞ

一南部戎近世の詩乃上手なりと雖人も称して之を倫定せり

余先年文集を一焼せしかハ新元の氣なく風流の韻ハ乏しとぞ

無疑ハ作者ハ心ゆたかなりとぞ小貝崎の作全あるのみ多年

ともるにハすし結の上手ハいとかるべし

一王漁洋の七言絶句玉洗洞ハ遠数なり。余ハ是戎変を

一醫書の文傷寒論ハ平穏ハ〜力なり。奇妙の作。儒ハ乃中ハ

多比稀なり。素問の文ハ玉石混雑せり。然れども更金倖他乃

医書乃及ぶ所ハ拔群ハ賜也なり。是戎續で他の儒ハを

不讀ともいへなる文章ハ書中月由なるべし。是外後世乃

医書ハ和漢ともハ玄不文なるものゝ文章の多中なるハ戎

ものなり。中邦の医書ハ甚だ文育不文なり。但賀川子玄の産

論畑柳安の医学院学範の二書文章系佳也中邦医書中

の第一の文章と為し外乃医書ハ唐土なるハ後ハかし

一中邦の画源氏物語ハ名多き事なり。是ハ古昔

ハ画無所ハ所ぐりしハ。いのふる事ハ今の世ハ絶て見ること

かたしハ殊会の事ハ世ぶりし。但金岡宅間の二画希ハ佛画

ハ殊乎。然れども多くハ拙し巧拙戎論ぶる事無りて。後

遠ハ於ハ啓書池相藝の二河弥信明兆ハ画名ハ世

足利氏乃末ハ狩野元信出て馬遠ノ画風を法とし。引続
て狩野氏代々その風を守り遂ハ家を成す。是絶ハ二百年許
此ときの事なり。土佐の家古しといへども中興ハ狩野氏のお係
みく是亦一家を成す。雪舟ハ宋人の画風を学ひ雪谷敦
代一家を成す。然れども拾おくれ事に乏し。されど本邦ハ画
乃ち盛ハなりてそ造ハ又々倫を成ハ二百年ばかりのすなり
唐土乃画ハ及て唐宋の画も多く本邦ハ伝ハる事を今ハ乏し
もはるかに絶臺と晴しの読ハ仰るあや
一本邦の画変狩聖一家を成すを探幽又別ハ一家をなして狩聖
古代乃風ハ変し。ハ探幽の風なり。土佐一家雪舟一

家をハ相阿弥。牧溪。玉澗。宋達。各ハ〻画風異あり近世百川
ハ〻明人の画風を法とし是より唐画と名目出ハ和画唐
画の二道と成る雪溪。鬱山。玉澗の徒ハ唐和の間を画くもの
を狩宋紫石。清晏鑑。范古。熊斐。大雅堂。蕉村。霍亭。梅窓。蕭白。
俊明。柳里恭。秋南海。林園苑。宮筑圃。浅図南。乃崇皆所謂唐
画ハ〻各一家の風なり今ハ皆古人と成り然れども画を多
く世人のよく知る所なり是より狩野土佐なとの和画家大に衰へ
毒ぶ人希なり中後。應挙。ハ〻画風又一変し近来唐画家ハ
和画家ハ皆その風味を自然ハ備ハる様ハ成ハ尚その画
家ハ谷文晁。董九如。僧月仙。僧玉麟。月溪。岸駒。在中又子。芦

雪。呑郷。稲嶺。源琦。紹言。東列。竹堂。南岳。僧維明。蘭洲。孝敬。芝山。閑山。豊彦。義董。應瑞。應受。文鳴。素絢。白猷。義篤。夙夜。探索又子。索道。春甫。五岳。春岳。熊岳。杏堂。武禅。閑月。愛石。周山。方中。奉時。祖仙。呆山人。栄嗣。繁。の案三都及び候所の画家数百千家指殘屋さくふ(ひ)ふいつくまで近時ふいつく画家最盛(さかん)としるべし

北窻瑣談後編巻之三終